

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 3 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100843		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂東		
所在地	広島市東区戸坂千足1丁目12番46号 (電話) 082-220-3000		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100843-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

人として当たり前の「気持ち良くトイレで排泄、安心して安全な入浴、おいしい食事」を援助するとともに、「その人らしい生活づくり」を目指し各入居者担当はその人の生活歴を理解し、その人ならではの習慣や拘りを大切に、利用者様主体の生活を送って頂けるよう支援している。2階オープンに伴い、遊びリテーションは両階合同で行い、職員、利用者様ともに1階、2階の垣根なく施設全体で交流できるよう取り組んでいる。医師が月に2回訪問診療を行い、訪問看護師と連携し24時間体制で日々の健康管理や急変時の対応をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人が医療法人ということもあり医療体制が充実し、安心して過ごせるようになっている。行事は月に1回計画されておりどこかに外出することで普段の気分転換となっている。また、おやつ作りに関してもケーキ作りなどを行い楽しみな生活となるように工夫している。職員の働きやすさに関してはリフレッシュ休暇を7日連休で取れる等の取り組みもあり職員が満足して働くことで入居者も満足した生活が出来るよう取り組んでいる。研修制度も充実しており入居者にとって自立した生活ができるような体勢も整っている。

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念、行動指針、運営方針を朝の申し送り時に唱和し、本日の個々の目標を掲げ評価し、実践につなげるようにしている。	理念をもとに職員一人ひとりが目標を立て、朝の申し送りで共有し、皆が良いケアを行えるように取り組んでいる。特に声かけには配慮しており、良い雰囲気を入居者が生活できるようにケアしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お祭りなど地域行事の参加や地域にある他事業所との交流、近隣のファミリーレストランには、家族や職員と一緒に利用している。また、散歩に隣家の寺院までお参りに行っている。	天気の良いときには散歩に行き地域の方と交流が図れるようにすることで顔の見える関係づくりを築いている。すぐ近くにお寺があり数人で人の多くない時にお参りに行き交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方が参加可能なイベントを企画し、認知症の理解を深め、世代交流を実施している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、利用者の状況やサービス内容、行事報告などを書面と写真にて行い、参加者からの意見などをサービスに反映するよう努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター、近隣の施設、町民代表、入居者、ご家族が参加している。意見の中では認知症の方に対する対応方法をアドバイスしてほしいとの要望に応えている事例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への定期参加を促している。運営推進会議の報告により事業所の取り組み実践を伝えている。	介護保険の申請時には顔なじみとなるように窓口に行くようにしている。また地域包括支援センターとはよく連携が出来ているため、認知症サポーター養成講座を依頼されたりと協力関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入社時に受ける基礎研修や事業所内研修などで身体拘束について学ぶ機会を設け理解を深めている。ホーム内は日中は玄関の施錠は行わず、いかなる時も拘束を行わないように努めている。申し送り時に不適切なケア・声掛けが無かったか自己評価を行っている。	身体拘束をしないための研修を全職員が年に2回受けるため、身体拘束をしないための意識共有が築かれている。ご家族から、安全のために身体拘束をしてくださいと言う依頼があった場合にもしつかり説明し工夫する事ではないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「身体拘束の適正化のための指針」を定め、3か月に1回「身体拘束・虐待防止委員会」を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入社時に受ける基本研修にて、これらの制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書、契約書などを提示し、具体的に説明するよう努めている。利用者及び家族からの問い合わせなどは十分な説明を行い理解・納得を得るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し、意見を伺う機会を設けている。面会時にも意見を伺うようにしている。個別の要望にもできる限り答えるように努めている。	家族の意見は、直接面会やオンラインでの面会時に確認するようにしている。また、家族会を年に2回開催し、意見の反映につなげている。個別の要望の中には、ドアを閉めないでほしいとの意見もあり、のれんを使用し対応した事例もある。また意見箱ではなくメールを利用して意見を聞き、情報共有も図られている。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員と共に介護業務を行い、全体会議やノートを設置することにより意見や提案を聞く状況を設けるとともに、少しの時間でも個別に面接やミーティングを行い重要なことは直ぐ反映するようにしている。	全体会議は年2回行い職員の申し送りノートを活用することで、意見を随時聞き取れるようにしている。ストレスのかからない業務になるように、勤務形態の見直しを行ったり、ユニットを分けて建物をつつの家として柔軟に対応できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	「目標・役割・態度責任設定&評価シート」による個々の職員の評価制度を設け、賞与、役割給、昇進、昇格人財育成、異動配置に反映させる仕組みを整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内でOJT制度を設け、新入職員者及び異動の職員に対し、教育システムを講じている。年内を通し計画的に法人内研修を受けられるようにし、外部研修については、研修補助制度を設け職員のスキルアップを応援する制度が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の研修の中で、外部の受講者も募集する研修を設け、交流する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時には、ご家族のお困りな点を良く聞き取っている。入居時にはご本人と少しでも早くなじみの関係を築くため、コミュニケーションを図っている。担当を定めご家族にもライフストーリーの聞き取りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族より要望などを聞き取りするとともに、事業所のコンセプトを伝える。場合によっては、ご家族の協力を必要とすることを理解していただく。密な情報交換により、ご家族に安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に状況を把握し、入居前には自宅や病院に事前面談に出向き、必要なサービスの提供や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を念頭に置き「共にある」という意識のもと支援している。できる事はして頂き、出来ない事は世話するのではなく、お手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に訪れやすいように環境設定や雰囲気づくりを心掛けている。ご本人を主体に情報交換を行い、ご家族との時間を大切にし、ご家族と共にご本人を支える関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	1か月に2回程度ご近所付き合いのあった友人が訪れ一緒に過ごされている方や、ご自分の経営していたお店に職員と出向き店の従業員とお話しされる方もおられる。	入居者の大半の友人がホーム近くに住んでおり、いつでも来やすい雰囲気があり随時訪問している。昔なじみの美容院や洋服屋さんに行けるように職員が付き添って行ったり、家族と連携を図ってお連れするようになっている。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席配置の工夫を行っている。良いところは引き立て、出来ないところは目立たないようにさりげない支援を心掛け、職員が間に入り、関係性を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	年賀状、暑中見舞いを出し、当事業所のイベントに参加していただけるよう声掛けをしたり、面会に行かせていただいている。また、ご家族が近況を伝えるに訪れることもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを把握し、生活に反映できるよう努めている。意思疎通の困難な方は人生史を深く掘り下げ、ご本人の代弁者となれるよう働きかけ、意向に沿えるよう努めている。	HLC（ハッピーライフクリエイター）と言う情報収集シートがあり、入居の段階や日々の情報を追記できることでその人の生活史がよくわかるようにしている。これにより、個別性を重視し、その人に合った暮らしとなるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に出来るだけ負担にならない程度で情報収集を行い、ご本人、ご家族からも情報収集を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	「生活するうえ困らない」という視点を大切に心身状態やできる事できない事の現状を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>HLC制度を設けご本人の意向を一番に考えご家族からも要望を伺い反映している。職員間で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成するように努めている。</p>	<p>HLCをもとに、担当者が主に情報収集を行い、全職員と共有した上でケアプラン原案を作成できるようにしている。このため個別性の高いケアプランとなり現場に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の活動の記録や介助の実績、発した言葉や体調などを記載し、情報共有や介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々の「その人らしい生活」を支援するという視点で必要なサービスを提供している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のお祭りの参加や地域のレストランの利用、認知症カフェに参加する支援をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医による訪問診療により、健康管理を行っている。他に必要な受診についてもご本人、ご家族の希望に沿って支援している。</p>	<p>入居前のなじみの主治医との連携はそのまま、法人の医療と連携を図りながら安心して医療が受けられるよう配慮している。また、訪問看護、訪問診療、訪問歯科、マッサージ等との連携があり、専門医へは職員が対応するようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が医療連携で月に1回訪問し、健康状態の把握を行っている。その際、利用者の健康管理について相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の相談員と連絡を取り合い、診療情報やサマリー以外に病棟看護師などと密に情報交換するように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、ご本人ご家族に書面を基に説明を行って考えるきっかけをつくらせている。終末期ケアについては、看取り後、感謝の葉書を頂いている。	入居の段階から看取りの説明を行い積極的に看取りを行っている。終末期における研修を職員に実施し、住み慣れた場所で最期まで暮らせるよう体制を整えている。このため実際に看取ったご家族からは感謝され喜ばれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内研修において看護師より急変時の対応について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議を利用して、近隣施設や地域住民と意見交換を行い、消防訓練時、消防署員来所時には助言や相談を行っている。いざと行く時に備え近隣施設と共助の協定書も交わしている。	ハザードマップによると危険区域には認定されていない。防災訓練は年に2回実施しそのうち1回夜間想定訓練を行っている。訓練時は、消防や契約している民間警備会社が来て助言をいただいている。また備蓄は1週間以上蓄えており万が一に備えている。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使い対応はもちろん、介助方法も尊厳を守る配慮をしている。プライバシーの確保についても、トイレのカーテンなどで環境を整備し、職員の申し送りや記録も十分配慮した対応を行っている。	人格の尊重と、プライバシーに関する研修を定期的に行い気遣いに配慮したケアができるように努めている。介助も利用者主体を意識し、介助者がするのではなく自らしていただけるようなケアに努めている。入浴時にはタオルを使用したり浴室にも暖簾を使用したりとプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	笑顔での対応を心掛け、否定や指示的な言葉かけ、対応でなく「受容」と「共感」の姿勢で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	落ち着いた生活を送れるよう、一人ひとりへの関わりを大切に、安心してその人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月訪問美容室を利用し、カットや髭剃り毛染めなど、身だしなみに配慮している。ご家族には季節ごとに衣類の衣替えをお願いして、ご本人の好みの衣類を持ってきていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前のテーブル拭きや、トレー拭き、食器洗いなど手伝っていただいている。	ご飯とお汁以外は配食サービスを利用しているが盛り付けは入居者と一緒に行い配膳を含め役割を持っていただけるようにしている。また、月に1回は行事食があり手作りにて提供されている。2週間に1回はおやつ作りとしてスポンジケーキと一緒にトッピングをするなど楽しみとなるようなレクリエーションも実施している。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	座位姿勢を整え環境の工夫をし、自分の力で食事や飲水ができるよう支援している。また、個々の状況に合わせた食事形態で提供し、食べていただける工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科医と連携を図り口腔機能管理体制を整えている。また、新入職者への口腔ケアの研修も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	全利用者にトイレ誘導を行っている。それぞれの排泄パターンを把握し、トイレで気持ち良く排泄していただくように努めている。入居前はパット交換のみの方にトイレで排泄するという事を思い出していただいている。	常時おむつ利用者はいない。入居前の排泄方法ではなく、その人の日常を共有することで気持ちの良い排泄が行えるようにケアしている。また、自立支援の研修を行い前かがみになれるテーブルを使用したり体操やマッサージを行うことで自然な排便となるようにケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	座位姿勢の排便（トイレでの排便）水分量、運動、食品の工夫などで便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	環境整備により、当たり前のお風呂に当たり前の動作で入浴できるよう努めている。声掛けの工夫やタイミングの配慮により気持ち良く入浴できるよう努めている。	週に2～3回は入浴していただけるようにしている。また、個浴にマンツーマンで入浴をしているため、プライバシーにも配慮され、重度化した場合には2人で安全に介助し湯船につかることで楽しみにつながるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの状況に応じ、居室やソファで休んで頂いている。夜間の安眠を妨げないように寝かせきりにならないよう離床時間を設け、メリハリのある生活を支援するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストはファイル管理し、職員同士が確認のうえ服薬介助を行っている。症状の変化が見られた時に速やかに看護師、医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る家事は手伝っていただき、感謝をお伝えすることを大切にしている。戸外へ出たい利用者には職員が付き添い、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出たい利用者には、出来る限り付き添い、希望を叶えている。個別での外出も希望や本人の生活歴から意向に沿えるよう支援している。	天気の良いときには毎日散歩に行き、近くのお寺にお参りをしている。近くのスーパーに買い物に出かけなじみの喫茶店に行ってコーヒーを飲むような支援をしている。普段行けない所への外出として、毎月外出レクがあり法人の車を利用してお花見に行ったり紅葉狩りに行ったりと楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の持ち込みはできない。本人が望む買い物はご家族の同意を得て立替金で購入している。		

自己評価	外部評価	項目(A)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の取次ぎや、手紙などは職員が間に入り支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ルーチン業務として清掃の時間を設け清潔で快適な空間となるよう努めている。室内は換気を行い、室温、湿度を適正に保つよう管理している。</p>	<p>共用空間にはソファや落ち着いた雰囲気となるような装飾があり、清潔な空間作りを1番に心がけている。このため居心地良く落ち着いて過ごしていただけるようにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを設置し、一人でゆっくりとできる場所となるよう配慮している。食事席は関係性を配慮し設定している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にご本人の使い慣れた家具や飾りなどを持ち込み、可能な限り自宅に近い環境づくりにつとめている。</p>	<p>ベッド、エアコン、照明、カーテン、車椅子等の福祉用具は施設のものを使用している。それ以外のものは危険物を除き持ち込み自由でダンスや机等は使い慣れた家具を持ち込んでいる。レイアウトの段階から家族と一緒にっており本人が居心地良く過ごせるよう努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ、浴室など出来る限り最期の時まで当たり前の生活ができるよう配慮し、環境整備している。</p>		

V アウトカム項目(A) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>経営理念、行動指針、運営方針を朝の申し送り時に唱和し、本日の個々の目標を掲げ評価し、実践につなげるようにしている。</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>お祭りなど地域行事の参加や地域にある他事業所との交流、近隣のファミリーレストランには、家族や職員と一緒に利用している。また、散歩に隣家の寺院までお参りに行っている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>地域の方が参加可能なイベントを企画し、認知症の理解を深め、世代交流を実施している。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議において、利用者の状況やサービス内容、行事報告などを書面と写真にて行い、参加者からの意見などをサービスに反映するよう努めている。</p>		
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>運営推進会議への定期参加を促している。運営推進会議の報告により事業所の取組み実践を伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入社時に受ける基礎研修や事業所内研修などで身体拘束について学ぶ機会を設け理解を深めている。ホーム内は日中は玄関の施錠は行わず、いかなる時も拘束を行わないように努めている。申し送り時に不適切なケア・声掛けが無かったか自己評価を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「身体拘束の適正化のための指針」を定め、3か月に1回「身体拘束・虐待防止委員会」を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入社時に受ける基本研修にて、これらの制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書、契約書などを提示し、具体的に説明するよう努めている。利用者及び家族からの問い合わせなどは十分な説明を行い理解・納得を得るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し、意見を伺う機会を設けている。面会時にも意見を伺うようにしている。個別の要望にもできる限り答えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員と共に介護業務を行い、全体会議やノートを設置することにより意見や提案を聞く状況を設けるとともに、少しの時間でも個別に面接やミーティングを行い重要なことは直ぐ反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	「目標・役割・態度責任設定&評価シート」による個々の職員の評価制度を設け、賞与、役割給、昇進、昇格人財育成、異動配置に反映させる仕組みを整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内でOJT制度を設け、新入職員者及び異動の職員に対し、教育システムを講じている。年内を通し計画的に法人内研修を受けられるようにし、外部研修については、研修補助制度を設け職員のスキルアップを応援する制度が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の研修の中で、外部の受講者も募集する研修を設け、交流する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時には、ご家族のお困りな点を良く聞き取っている。入居時にはご本人と少しでも早くなじみの関係を築くため、コミュニケーションを図っている。担当を定めご家族にもライフストーリーの聞き取りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族より要望などを聞き取りするとともに、事業所のコンセプトを伝える。場合によっては、ご家族の協力を必要とすることを理解していただく。密な情報交換により、ご家族に安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に状況を把握し、入居前には自宅や病院に事前面談に出向き、必要なサービスの提供や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を念頭に置き「共にある」という意識のもと支援している。できる事はして頂き、出来ない事はお世話するのではなく、お手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に訪れやすいように環境設定や雰囲気づくりを心掛けている。ご本人を主体に情報交換を行い、ご家族との時間を大切にし、ご家族と共にご本人を支える関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	随時面会を受け入れている。馴染みの場所にご家族などと出向く支援を行うこともある。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>席配置の工夫を行っている。パズルゲームなどを一緒にして頂き関係性を築いている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>年賀状、暑中見舞いを出し、当事業所のイベントに参加していただけるよう声掛けをしたりしている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご本人の思いを把握し、生活に反映できるように努めている。意思疎通の困難な方は人生史を深く掘り下げ、ご本人の代弁者となれるよう働きかけ、意向に沿えるよう努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前に出来るだけ負担にならない程度で情報収集を行い、ご本人、ご家族からも情報収集を心掛けている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>「生活するうえ困らない」という視点を大切に心身状態やできる事できない事の現状を把握するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>HLC制度を設けご本人の意向を一番に考えご家族からも要望を伺い反映している。職員間で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成するように努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の活動の記録や介助の実績、発した言葉や体調などを記載し、情報共有や介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々の「その人らしい生活」を支援するという視点で必要なサービスを提供している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のお祭りの参加や地域のレストランの利用、認知症カフェに参加する支援をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医による訪問診療により、健康管理を行っている。他に必要な受診についてもご本人、ご家族の希望に沿って支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が医療連携で月に1回訪問し、健康状態の把握を行っている。その際、利用者の健康管理について相談し助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の相談員と連絡を取り合い、診療情報やサマリー以外に病棟看護師などと密に情報交換するように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、ご本人ご家族に書面を基に説明を行って考えるきっかけをつくっている。終末期ケアについては、看取り後、感謝の葉書を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内研修において看護師より急変時の対応について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議を利用して、近隣施設や地域住民と意見交換を行い、消防訓練時、消防署員来所時には助言や相談を行っている。いざと行く時に備え近隣施設と共助の協定書も交わしている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使い対応はもちろん、介助方法も尊厳を守る配慮をしている。プライバシーの確保についても、トイレのカーテンなどで環境を整備し、職員の申し送りや記録も十分配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	笑顔での対応を心掛け、否定や指示的な言葉かけ、対応でなく「受容」と「共感」の姿勢で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	落ち着いた生活を送れるよう、一人ひとりへの関わりを大切に、安心してその人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月訪問美容室を利用し、カットや髭剃り毛染めなど、身だしなみに配慮している。ご家族には季節ごとに衣類の衣替えをお願いして、ご本人の好みの衣類を持ってきていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前のテーブル拭きや、トレー拭き、食器洗いなど手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>座位姿勢を整え環境の工夫をし、自分の力で食事や飲水ができるよう支援している。また、個々の状況に合わせた食事形態で提供し、食べていただける工夫をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科医と連携を図り口腔機能管理体制を整えている。また、新入職者への口腔ケアの研修も実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>全利用者にトイレ誘導を行っている。それぞれの排泄パターンを把握し、トイレで気持ち良く排泄していただくように努めている。入居前は寝たきりでベッド上のパット交換のみの方が、トイレで排泄ができるようになっている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>座位姿勢の排便（トイレでの排便）水分量、運動、食品の工夫などで便秘の予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>環境整備により、当たり前のお風呂に当たり前の動作で入浴できるよう努めている。自立で、恥じらいのある方には、さりげなく見守りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの状況に応じ、居室やソファで休んで頂いている。夜間の安眠を妨げないよう寝かせきりにならないよう離床時間を設け、メリハリのある生活を支援するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストはファイル管理し、職員同士が確認のうえ服薬介助を行っている。症状の変化が見られた時に速やかに看護師、医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る家事を見つけ声掛けし、お手伝いしていただいている。戸外へ出たい利用者には職員が付き添い、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出たい利用者には、出来る限り付き添い、希望を叶えている。個別での外出も希望や本人の生活歴から意向に沿えるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の持ち込みはできない。本人が望む買い物はご家族の同意を得て立替金で購入している。		

自己評価	外部評価	項目(B)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の取次ぎや、手紙などは職員が間に入り支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ルーチン業務として清掃の時間を設け清潔で快適な空間となるよう努めている。室内は換気を行い、室温、湿度を適正に保つよう管理している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを設置し、一人でゆっくりとできる場所となるよう配慮している。食事席は関係性を配慮し設定している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にご本人の使い慣れた家具や飾りなどを持ち込み、可能な限り自宅に近い環境づくりにつとめている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ、浴室など出来る限り最期の時まで当たり前前の生活ができるよう配慮し、環境整備している。</p>		

V アウトカム項目(B) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂東

作成日 令和3年4月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練が実際有事において有効に活用されるか不安がある。	いざという時に訓練を活かせる体制づくりを行い災害時に備える。	近隣の協力施設と連携・共助を図り、訓練時は双方に参加し合い共有する。同じく町民の参加を取り込み有事に備える。	6か月
2	13	職員を育てる取り組み。	安心・安全・安定・のサービス提供。	OJT制度や法人内の研修を有効活用しチームで育成を行う。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。